

離婚女性の応援誌

HAND in HAND

はんど・いん・はんど

【子の悲しさ前に、自分で選ぶ難しさ】

■ニコニコ離婚講座の200回を記念した2日間（3月28、29日）のイベントは無事終了。多くの人々から励ましのメッセージやお祝いの言葉をいただき、また全国各地からハンドの会員の方が駆けつけて下さり、感謝の気持ちで一杯です。

■28日のシンポジウムや祝う会では、「離婚は人生のひとつの通過点に過ぎない」という言葉や「自分らしい生き方ができる社会を作る、ジェンダーを超えて生きることが大切」「個人が個人として対等な関係で生きられる社会」という言葉がとても胸に残りました。個と個の関係、社会制度や法律を見つめ直すため、離婚を通して切りこんでから20年近い歳月が流れたわけですが、200回記念に飛びかった上記のような言葉は現実のものとして定着しつつあるのでしょうか。

■29日の日曜日は少人数（40人）ながら、ハンドの全国集会を開いて、2つの分科会に別れて討論したのですが、「離婚を人生の通過点と考え、前向きに生きていても、子どもがいじめられる。地域社会の中で守ってやれないのが辛い」「自分の責任で人生を選んだけど、子どもを奪われ、会わせてもらえない…」など辛い話も沢山あり、飛行機や新幹線の時間を気にしつつ、みんな朝から午後3時頃まで語りあいました。

時間も少なく、結論の出ない問題ばかりでしたが、皆さん少しは元気を分けあえたでしょうか。

■国会が超多忙な時期と重なっている中での200回記念の準備だったので結構きつかったのですが、記念のハンドブックも作成しました。会員の皆さんには、郵送料込みの特価500円でお分けします。郵便振込か切手同封のどちらかでぜひお申し込み下さいませ。（円より子）

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手を取りあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

逐次刊行物

10. 5. 11 歳

現代家族問題研究所

180

第180号 600円 禁無断転載

【発行日】1998年5月1日

【発行所】現代家族問題研究所

【連絡先】〒150-0001 東京都

渋谷区神宮前6-34-3-201

TEL & FAX 03-5512-2738

【発行・編集人】円より子

【スタッフ】向井通江 星野美子

【印刷】(株)日出島

ニコニコ離婚講座200回記念シンポジウム 「ジェンダーフリーの社会を目指して」

3月28日(土)に開催したシンポジウムの内容をダイジェストにしてお伝えします。

文責/向井通江

ニコニコ離婚講座が200回を迎えたのを記念して、3月28日(土)に、東京ウイメンズプラザでシンポジウムを開催しました。呼びかけ人代表の加藤シズエさん、加藤タキさん、木元教子さん、菅原真理子さん、原ひろ子さん、吉武輝子さんを初め126名の方々が呼びかけ人になって下さいました。また、離婚制度に関係深い法務大臣、厚生大臣や多くの女性国会議員、そして各分野でご活躍の方々から多くさんのメッセージを頂きました。参加者は240名。会場からも熱気溢れる質問が飛び出し、盛会のうちに終わることができました。(第1部の基調講演は加藤シズエさん(101歳)が体調を崩されたため、スライド上映と加藤タキさんのお話に変更致しました。)

開会挨拶・円より子

1979年3月に第1回のニコニコ離婚講座を開いてから今日で200回を迎えました。

私は1ドルが360円だった頃、北欧諸国を旅行し、女性たちの生き生きと生きる姿を見ました。離婚についても財産分与や慰謝料を

決めるより、離婚しても親としてどう子どもと関わっていくべきかをきちんと決め、離婚後も父親も保育園の送り迎えをしたりするのを見て、日本は生活力のないことから、離婚した方がいいと思ってもできない、離婚の自由を持たない女性たちの姿に、その差はなんだろうというところから本を書き、金住さんと出会い、講座を始めました。

離婚をニコニコ勧めるけしからん女が出てきたとの誤解や非難も随分受けましたが、多くの方々は好意的に迎え、その趣旨を理解して下さい、続けることができました。

講座を地方で開いてほしいという声もたくさんあがりましたが、ボランティア活動ですから資金面が大変で地方まではとてもできない。そこで情報を郵送で届けようと、会報「ハンド・イン・ハンド」を作り、その会合が各地ででき、電話相談を始め、また相談員の養成も行うようになりました。

女性を取り巻く状況はこの不況で大変厳しくなっていて、失業や減俸等、雇用が不安定化し、片や財産分与や養育費等の離婚制度は良くなっていません。その上、児

童扶養手当も削減され、まだまだ講座を続けざるを得ない状況です。

昨年離婚件数が22万5000件を記録、今後も離婚件数、中高年離婚が増えていくと思います。女性が子どもを育てながら働き続けられる社会、女性も男性も生きやすい社会を作ること、離婚の選択もしやすい社会が生まれるのではないかと考えています。皆さんとご一緒に、今後も活動していくつもりです。

スライド上映

「加藤シズエの離婚・再婚、そして仕事」

ナレーション・萩尾瞳氏(映画・演劇評論家)

加藤シズエさんは1897(明治30)年に、工学博士廣田理太郎さん、敏子さんの長女として、東京に生まれ、上流階級の家で、穏やかに恵まれた少女時代を過ごしました。



1919年、22歳でニューヨークのバード・スクールに留学した頃



加藤勤十さん、多喜子
(タキ)さんと

1914(大正3)年、女子学習院を卒業後、17歳で石本恵吉男爵と結婚。帝大を出た石本男爵は三井鉱山(株)に技師として入社、シヅエさんを伴って九州の三池炭鉱に赴任しました。炭鉱で働く人々の貧しさや、不衛生な環境の下、お産で死んでいく女性や子どもたちの多さは大きなショックと、何かをしなればという気持ちでシヅエさんに植え付けました。

1919年、先に渡米した夫に勧められ、ニューヨークのパラード・スクールに留学。20年、バース・コントロール、家族計画こそが女性の自立に必須だと考えていたシヅエさんは、生涯の師、産児調節活動家のマーガレット・サンガーさんと出会いました。22年に帰国後、日本産児調節研究会を設立。産児調節運動を展開し、「日本のサンガー夫人」と呼ばれるように。



1956年、参議院議員に
トップ当選

1924年には婦人参政権獲得期成同盟を、市川房枝さん達と結成し、中央委員になりました。25年の婦人問題研究所設立、31年の日本産児調節連盟結成など、女性の自立を促す運動を進めました。

1920年代後半から、シヅエさんと石本男爵は別居状態でしたが、法的な制度と家族の反対で成立しなかった離婚が、ようやく44年に認められ、支えとなっていた労働運動家・加藤勤十さんと再婚。翌年48歳の高齢で多喜子(タキ)さんを出産。前夫との息子新さんは成人し独立、次男の民雄さんを43年に病気で亡くしていました。

1946年、女性が初めて参政権を獲得した総選挙で、衆院選に立候補し、見事トップ当選。日本社会党に入党し、勤十さん共々「おしどり議員」と呼ばれました。以

来衆参合わせて28年間政治家として活躍、政界を74年に去りました。

1978年、加藤勤十さんが86歳で亡くなりました。4年後に、「想い出のふる」という本に勤十さんへの深い愛と死の悲しみを綴り、

基調講演「母・加藤シヅエの生き方と自立」

加藤タキ氏(自由業)

悲しみから立ち上がって行動することを決意、現在も旧日本家族計画連盟会長、姉家族計画国際協力財団会長を務め、1988年に国連人口賞を、97年には名誉都民の称号を贈られました。

17歳でお見合い結婚した石本男爵のことを母は、超エリート、ハンサムで長身、どこから見ても素晴らしい男性だったと言いますが、皆さんがこれから恋愛をする場合、エリートは避けなさいと言っています。自分自身が挫折したことがないから、人の心の痛みがわかりにくいと。人としての暖かみがないと、長い人生を共に暮らそうと思う時、どこかですれ違っていくことがあり得るだろうと。母の前夫の石本男爵は30歳を過ぎてから挫折を知りました。その時にはもう立ち上がる術も、エネルギーもなかったのです。

あれ程率先して大正デモクラシーの中で生きていこうと、新渡戸稲造先生や吉野作造さん達と共に運動をしていくはずだった男性が、挫折を30歳で味わった瞬間

から、生きる方向すら転換してしまった。主義主張を変え、利己的になってしまい、家庭を顧みず世界中を旅行するように。その間、母は毛糸屋を開いたり、裕福なご婦人方を対象に編み物クラスを考えて、生活費を稼ぎました。また米国に講演旅行に行き、そのお金で二人の息子を育て、学校に行かせました。

母は1920年代後半から離婚したいと思っていましたが、宮内庁の許可が必要で、そのためには家族3名の承諾が必要で、名誉が傷つくとも認めてくれませんでした。1933年に母は、新しい道で生きていきたいと、それまでの感謝すべきことは心よりの感謝を述べつつ、率直にしかし熟慮した上での手紙を石本男爵へ出しました。「私はどう考えても今後の長い一生を元のような夫婦生活に立ち戻



▲加藤タキさん

ることが出来ないと思えます。
 「中略」私達はもう大分前から事実上夫婦ではないのでございますので、今度は形式的にもはっきりお別れすることにした方がよくはございませんか。「後略」「(百歳人 加藤シヅエ 生きる)より」
 ようやくこの手紙で、石本男爵に伝わり、離婚に至り、加藤勘十と再婚したわけです。私は両親の勇気と情熱に感謝しています。
 私は24歳で自分の意志で結婚を決めました。夫は14歳年上で離婚経験者、職業は芸能プロモーター。当時は誰も知らない仕事で、私の両親は国会議員。けれども父も母もそういうことに関しては、「自分で決めて、自分でいいと思ったんだから、生涯の幸せだけを祈っている」と一切言いませんでした。
 28歳で離婚をする時も、母は「次に向かって生きていこうとするん

だから、前向きに考えましょう。けれども1度ご縁があつて一緒になつた方なんだから、ケンカ別れだけはしてほしくない。特に同じ業界で働くのですから。最後の晩餐をして下さい」と。双方の身内だけでディナーをし、お互いに離婚のあいさつをしました。そのお陰で、前夫とは今でもいい友人関係を続けています。

再婚相手も過去2度離婚を経験した人ですが、夫の最初の妻にお会いした時、息子さんがとても素敵な青年なので、彼女に、あなたが本当に素敵だったんでしょねと言うと、「あなたのお父さんは世界一素晴らしい建築家で、世界一素敵な男性なのよ。でもあなたも大きくなればわかるけど、それだけでは男と女はうまくいかないのよって、説明してきたんです」と。本当に素敵だなあと感動しました。
 今朝、母にメッセージを託されたのですが、離婚は長い人生を振り返った時の1点に過ぎません。それをエネルギーに、次の自分を育てていけるのです。とにかく人生前向きに自分を信じて、お互い手をさしのべながら生きていきたいと思っています。

パネルディスカッション

ジェンダーフリーの 社会を目指して

円より子がコーディネーターを兼ね、まず各パネリストの方から問題提起を頂きました。

円「ジェンダー」は基本的には社会的文化的に規定される性別分類概念。社会的に作られてきた性差。

日本の社会政策、福祉政策は、大企業本位、男性本位の、介護、育児等家族頼みの、ジェンダー社会的性差に立脚して作られてきました。離婚問題には、そういった社会の問題が集約されています。離婚は夫婦喧嘩の延長ととらえられ、夫が夫、妻が妻、夫が夫に努力して逃げられない、社会的性差にもとづく構造が生み出す壁があるんじゃないかと、講座等続ける中で、ひしひしと感じてきました。

社会的性差を超える社会を作っていくには、女性子どもを産んでも働きやすい社会、子どもがいようがいまいが、結婚していろいろがいまいが、生き方の違いによる不公平、不利益を感じなくてすむ、そういった選択肢の広い社会を作っ

木元教子氏(評論家)

原ひろ子氏(お茶の水女子大ジェンダー研究センター教授)

金住典子氏(弁護士)

円より子(現代家族問題研究所代表)

ていけば、離婚問題の多くは解決するし、女性も男性も生きやすい社会が作れるのではないかと。200回を迎え、今後そういう社会を目指す運動もやっていきたいと思いいこのタイトルを。

金住 今でも多くの女性は、自分を大切に生きる、生まれたときから死ぬまでといった長い物差しで自己の尊厳を生きたということを妨げられています。男性優位の性差別の社会で、男性に依存して生きることを強いられています。男性に依存せずに生きようとするのが離婚ですが、そういう個人の自立を阻むものが、目に見えない形で網の目のように張り巡らされているのが現状です。

私は、ジェンダーフリーというよりむしろ、「個人が個人として対等な関係で生きられる社会」という言葉の方が、本当の意味で、時代を開くのではないかとと思っています。私は1983年に加藤シヅエさんが会長をなさっている日本家族



計画連盟主催の「堕胎罪と優生保護法を考える」連続シンポジウムの実行委員の一人として参加しましたが、自己決定権が女性の人權を確立するキーであるということに目覚めました。そして、日本は個人が個人として生きることを阻む法制度によって、取り囲まれているのだということに気づかされました。今や長野県を除いて日本全国の自治体で制定されている「淫行条例」は、性の自己決定権を侵害するものです。女性の人權を否定する堕胎罪や母体保護法が、未だに存続しています。

1980年に制定されたスウェーデンの社会サービス法は自己決定権の保障を正面から掲げて制定されています。人權の核として

の自己決定権を確立する法制度を作っていかなければ、本当の意味での、個人が個人として対等な関係で生きられる社会を作っていくことはできないのではないのでしょうか。原「自己決定」という言葉を使う時に気をつける必要があります。一つは、援助交際ですが、自分の娘に「自分で決めたんだから、文句言わないでよ」と言われ、どうしよう困っている法律専門の大学女性教授もいます。

また、自分では「自己決定」したつもりでも、何か大きな力あるものからめ取られている、そして変えたい社会を変えないように加担してしまっていることも。ですから、今仮に折り合い、決めるとしても、これからの時代のために、まだやらなければいけないことが残っているんだという認識を持って、自己決定という概念を実際の生活の中で、練磨していくことが必要ではないかと思えます。

私は男女共同参画審議会の暴力部会の一員ですが、男性の委員の方の中には、家庭内暴力や女性への性暴力について認識の低い方もいます。強姦についても、「その女性のスカートが短かったんだ」「変

な化粧をしていたんだ」と、私たち女性の委員に、「統計も、証拠もないところで法律なんかつくれない」とおっしゃっていました。そこで民間のシェルターや、都の女性相談センター、被害者の研究をしている研究者等のヒアリングを何度か行いました。そうすると、「暗数が大きいんだなあ」と。暗数とは統計では見えていないが、実際には存在している状況ですが、3回目には「何とかしないといけない」とおっしゃった。今後も各省庁のヒアリング等、ゆっくりやらなければいけないと思っています。

男女共同参画室では女性基本法の骨子を策定中ですが、6月頃に骨子を公表します。その後1か月、FAXで国民の意見を受けるので、皆さんの立場から見ると、どういふものを女性基本法の中に盛り込んでほしいのか、たくさんさんの意見を送って下さい。私にとって必要な法律の中味はなんだろうと書いて頂くことが大事。すぐには実現しなくても、検討会や研究会を作っていくことができるのです。

木元 法は、こう生きたいというその時代の人達の自然な生き方の現れです。専門家が作るものだとい



う認識をもつのは間違いです。いろいろな法の成立のプロセスを見ていると、民意が高くて反映されている場合、マスコミでも取り上げ、大きなバックアップになるわけです。女性基本法も何か、自分の生き方を見つめた時に、こういうのがあればいいと思ったなら、それを支える行動を自分から起こさないと法はできません。

世の中にはジェンダーフリーではない言葉が蔓延しています。今日もテレビで「父兄」と文部大臣が言っていました。これは戦前の女性が権利を持たない時代の言葉。今は「保護者」です。

仕事でも私は、初の「女性ニュースキャスター」、子どもが生まれると「ママさんニュースキャスター」

と言われた。また講演でも、経歴紹介の際、「結婚して、2人お子さんがいます」と家族構成まで話す。これは男性には言わない。私は、すぐメディアに電話をかけたが、訂正を要求したりしていますが、おかしいと気づいたときに口に出して言わないと、それは社会で肯定されてしまう。

また、いい仕事をした時「やっぱり女じゃないよ、君は男だよ」と言われた。「女の域を超えている」。これがほめ言葉だと思っている。また女が髪を切ると「何かあったんですか」。結婚を上司に報告すると「結婚しても仕事を続けるの」と言う。私が結婚した昭和32年の時と今も変わらない。ジェンダーフリーじゃない社会が構築されているのです。一人一人が気づいたときにおかしいと伝えていくことが、ジェンダーフリーをバックアップすることになるので言い続けましょう。

☆

次に会場から発言を頂きました。まずハンド東京の前世話係山本さんから、「女性が幸せでない、女性が差別されている構造の中で、男の人が本当に幸せかということと、男の人達が自覚する必要があるの



ではないか。男の人も気づいたところから大声を出してほしい」。ハンド愛知の佐藤さんは「離婚して一人で仕事をしていると誰かの愛人だと勘ぐられる。まだまだ地方ではジェンダーという言葉すら通じない」。ハンド大阪の世話係渡部さんは「九州や高知の方が大阪の講座に来る。子どもができないから、家風に合わないから離婚された等、地域ではまだまだ家族制度が残っている。また、離婚家庭の子どものように社会の不条理を見つめて、限られた世界で生きてきた子どもの方が自己決定できるが、いわゆる普通の子の方が、自己決定する情報も何も持ち合わせていないんじゃないかという問題を感じている」。ハンド香川の世話係酒

井さんは「ハンドの会員で、自分の問題が解決したら抜けてしまう人がいるが、離婚にしても、老人介護、障害者の問題にしても、一番弱い人がおかしいと声を上げやすいように、そこを抜けた状態の人が、サポートする側にまわることで、大事じゃないか」。

最後に大阪ハンド会員から「教師をしているが、田舎だと離婚していますと保護者には言いにくい。家裁の調停を受けたが、調停委員は医者の妻や元教師等、幸せな結婚をされた方ばかりで、なかなかわかってもらえない。外国のようにいろいろな経験をされた人が調停委員になったら、嫌な思いをしないですむのではないか」と、発言を頂きました。

会場の発言を受けて、パネリストから、まとめのコメントを頂きました。

金住 自分を本当に自由に生きることを阻む、とらわれの中で多くの人達は生きています。女性もとらわれているけれども、男性はもっととらわれていると思います。

法律は社会の基礎です。本当に自己決定していく主人公になるためには今の社会の法律が悪いと思

ったら、変えていくことをしなければいけません。

また、対等とはそれぞれ個人は違うんだということを前提に、生まれてから死ぬまで皆自分の人生は自分で決定していくのだ、それは国も他者も介入できないことなんだと個人の尊厳観を尊重することだと思えます。自己決定権は個人の尊厳を人権の核として法律によって確立させようという真の人権意識だと思います。

戦後50年経っていますが、民主主義の基本から私達が作り上げて行かなければならないところに今立っているんだと思います。

原 現代のジェンダー構造の中で男性も苦しんでいて、男性学も出てきました。世の中の思いこみの「男だから××」でどんなに大変かについての議論も出ました。これこそ、21世紀の私達の生活の中で、本当に大切な問題提起をしているんだと皆がわかっていけるようにすることが大事です。

これから1000年経ってもジェンダーはフリーにはならないんじゃないか。けれども、男が支配し、女がそれに従うとか、男がジェンダーの観念に縛られて、自分

らしい生き方ができないというような社会でない状況を作っていく、ジェンダーを超えて生きることが大切なあとだと思います。

木元 ジェンダーフリーは言葉として存在してほしいし、世の中そうなっていると思うんです。ただし、人に責任を転嫁しないで下さい。皆気づかないで、ジェンダーを構築しています。子どもをしつけないとき、「男だから泣くんじゃない」「女の子だから手伝いなさい」。仕事から帰ってきてお茶を入れたり、食事の支度に立つのは女性。身近なところからジェンダーフリーを築かない限り、私は無理かも知れないと思います。

夫婦2人の関係はその2人の関係、周りや社会は関係ない。良妻、悪妻も定義はない。坂口安吾氏は「悪妻はいない、その特定の男対特定の女の加減乗除である」と言っています。つまりその夫との関係において悪妻であるか、良妻であるかなのです。そのことを意識していけば、割台身近からジェンダーフリー改革はできるんじゃないかと期待しています。

樋口恵子さんが「粗大ゴミ」と言われましたが、ある川柳で、「粗

大ゴミ 朝出したのに 夜帰る」とあった。粗大ゴミにしたのは誰か。最近粗大生ゴミと言いますが、昔から粗大生ゴミ症候群はありました。「男やもめにウジがわく」。私

がかわいそうな男にしていると自己責任原則を意識したい。この頃は欠陥製造物を作ったら責任をとらなくてはならない。PL法で。どちらが被害者か、加害者かではなく、私が粗大ゴミを作っているのではと問いかける。そういう視座を持つことが世の中を明るくするし、自らを固定的な生き方に閉じこめないことです。地域差やいろんな問題あると思いますけど。

自立は英語でself-supportと辞書に書いてあります。自分自身をサポートする。自分を応援し励ます、自分のことは自分でし、養い、育てる。自分を育てるのは自分しかない。それが自立の原点です。ジェンダーフリーという立場から言えば、男も女もそれぞれが、覚悟する必要があるんじゃないか。とにかく今がスタート、そう考えたいと思います。

円 私達は製造物責任を取りつつ(笑い)、女性と男性が共に生きやすい社会を目指したいと思います。

ニコニコ離婚講座

200回を祝う会

シンポジウム終了後、会場を隣の子どもの城に移し、午後6時から記念パーティー「ニコニコ離婚講座200回を祝う会」を開きました。参加者は130名。

円の当初からの活動をよく知っている友人、高橋美幸さん(産経新聞)の司会で、まず金住弁護士、円より子の挨拶の後、呼びかけ人代表の吉武輝子さん(著述業)に乾杯の音頭をお願いし、始めました。

「私は21歳で学生結婚してから46年間、ずっと一人の男と暮らしてきました。これは金住さんと円さんが離婚しても恐くないよ、ニコニコってっちゃうんだよという状況を作ってくれたからできたこと。離婚してもいいし、一緒にいてもいいという選択肢、軌道修正のできる自由があることは、いい関係をつくる可能性がでること。この会のますますの繁栄と女男のいい関係の社会作りを願って乾杯」と吉武さん。

しばらく食事を楽しんだり、歓談した後、リレートークを。弁護士

士やジャーナリスト、大学教員、医師等、各分野で活躍中の円の友人知人が大勢駆けつけ、メッセージを下しました。中にはご自身、離婚、再婚の経験のある方も。

各地から集まったハンドの世話係、電話相談員の紹介の後、呼びかけ人代表の一人である菅原眞理子さん(埼玉県副知事)のお話で、最後を締めました。菅原さんの「日本では結婚して、子どもが2人いてというスタンダードから外れるとダメという烙印を押される。いろいろな生き方の中で頑張る人を応援する、そういう成熟した社会を作る先鞭をつけた円さん。実践するのは本当に大変だったと思います。よくやってきたよね。」の言葉に、円も会場もちょっとジーン。皆さんの言葉に、300回へ向け頑張るエネルギーを頂きました。



話している方は、離婚110番顧問の吉川武彦氏(国立精神・神経センター精神保健研究所長)

家計簿公開



第115回 東京 Kさん

〔家族構成〕

私 29歳（会社員）

長女 3歳（保育園児）

実父 61歳（無職）

実母 58歳（無職）

〔住居〕

戸建（両親の持家、6LDK）

★

一昨年の6月に調停で離婚成立、まもなく2年になります。

当時は、やっとの思いで離婚し、心身共に疲れ果て、先のことを考えては途方に暮れる毎日でしたが、現在の仕事について1年半余りが経ち、生活に少しゆとりも出てきました。

元来、嫌なことは忘れてしまう楽家のせいかな、不思議と彼に対する憎しみは今はなく、穏やかな精神状態にあるのですが、渦中の頃は泣き崩れ、食事もうろくに喉を通らないといった日々でした。

直接の原因は、彼から受けた「言葉の暴力」。妊娠中も出産後も連日連夜明け方まで、私や私の身内に

対する中傷を言い続けられ、0歳の娘の育児で睡眠不足の上なので、牢獄にいるような生活で、今思い起こしても涙が溢れてきます。あの生活から逃げ出せた時の安心感だけは一生忘れることはないと思います。

私に離婚の選択肢を教えて下さった弁護士は、日本の裁判所は「言葉の暴力」を決定的な離婚の原因として容認する現状にはないと言われたのですが、先生の確かな弁護もさることながら、元夫の調停での問題発言に調停委員が、私の申し出を理解して下さったこともあり、最後まで親権を譲らないと主張していた彼を、最終的には審判官が説得して下さいました。

私の調停では、周りに恵まれ、比較的幸運だったのですが、「肉体への暴力」に比べると「言葉の暴力」に対する世間一般の理解の無さに、歯がゆさを感じます。

娘にとっては父親に変わりなく、面接交渉は調書に盛り込んだこともあって、月1度行っています。デパートで待ち合わせをし、1時間半彼と娘はおもちゃ売場で親子の時間をとり、私はその間、ここぞとばかり、ゆっくりリョッピング

を楽しんでいます。帰る直前に洋服やおもちゃを彼に買わせて、母娘共々満足！ どうせなら、面会もポジティブにと思っています。

両親に生活費として8万円入れています。娘はよく食べるので少ないくらいだと思っていますが、被服費にかさみ、しばらくは増額できそうにありません。娘のお出かけ着はデパートの友の会の金券でまとめ買いし、普段着は区立のリサイクルセンターやフリーマーケットで安く購入します。また、リサイクルセンターには3か月に1度古着を売り出し、その収入で小旅行などを楽しまします。

養育費は、そのまま定期預金に

振り替え、手をつけていません（私の意地？）。成人したら、娘にそのまま渡したいと思っています。

今、私は某国家資格の受験勉強中で、行く末は女性の労働問題に微力でも社会に貢献していきたいと考えています。初め行きたがらなかった保育園にも、毎日元気に登園するようになった娘は、明るく育っています。

現在、正社員で残業を月30時間こなしてられるのも、両親が健康で、私たちを支えてくれているお陰だと思っています。両親の体力が衰えた時、恩返しができるように体力と金力（？）をつけておきたいと考えています。

家計簿内訳 (1998年3月分)

〔収入〕

給与（手取り）	247,000円
養育費（元夫から）	20,000円
児童育成手当	13,500円
計	280,500円

〔支出〕

両親へ （住居・光熱・食費代）	80,000円
弁護士への支払い （報酬金を分割で支払ってます）	10,000円
電話代（住宅用・携帯）	7,000円
生命保険料	14,100円
被服代	40,000円
交際費・経費	20,700円
保育園料	11,700円
預金	97,000円
計	280,500円

第3弾 「男のための 離婚110番」 報告

昨年の離婚件数は22万5000件と、至上最多を記録しました。女性の再就職の厳しさ等から、日本では相変わず若い世代の離婚が多いものの、40代、50代が10年前に比べて倍増しています。

昨年から、日産生命、山一証券、拓銀等の大手だけでなく、銀行の貸し渋りにより、中小企業の黒字倒産も続出するような状況の中で、男性たちのストレスも増大しています。そういった中で、新たな家族問題がみえてくるのではないかと、第3弾「男のための離婚110番」を2月28日（土）、3月1日（日）の2日間、各12時から19時まで、4台の電話で行いました。

当日は25名の電話相談員をシフトして待機していましたが、当事者男性から延べ65件（前回109件）、当事者女性8件（3件）、第三者1件（15件）の計74件（127件）と予想外の少数に終わりました。この「件数が少なかった」こと

に大きな特徴が出ています。今、男性の自殺が増えています。人が自殺する時というのは、睡眠不足が続く、体力的にも弱まって、物事を悪くしか考えられなくなる。今の状況は夫婦仲をどうするか、離婚した方がいいかより、この世で生きていけるかどうかということころまで追いつめられていて、「離婚110番」より「失業110番」「自殺110番」に重点が行き始めているということなのです。

バブル期には「別居中」が減りました。家を売り財産分与することで離婚できた。今は購入した値段より安くなっている、家を売ってもローンが残ってしまう。一緒に暮らしたくないと思っただけでも、別れることもできなくて、1階と2階で顔をあわせず暮らす「家庭内離婚」が増えていきます。

男性たちの気持ちも閉塞状況になっていて、どうせ離婚相談をしても現実が見えていない。それよりも失業や転職等、夫婦仲のこと以前に生活の基盤になる職業や収入ということが、もっと切実な問題として上がってきている厳しい時代状況の読みとれる、今回の「男のための離婚110番」でした。

当事者初回男性63件について集計

離婚を考える原因（複数回答）

回 答	件数	%
価値観、人生目標が違う	14	22
夫の経済力のなさ、経済観念の違い	2	3
妻の経済力のなさ、経済観念の違い	5	8
夫の失業、倒産、破産、借金	1	2
妻の失業、倒産、破産、借金	2	3
夫が家庭をかえりみない	0	0
妻が家庭をかえりみない	4	6
夫の不貞	10	16
妻の不貞	10	16
夫のアル中、酒乱	0	0
妻のアル中、酒乱	1	2
夫の暴力	4	6
妻の暴力	1	2
子どもをめぐっての対立	6	10
親兄弟との折り合いが悪い	11	17
相性が悪い	8	13
性的不一致	10	16
夫の性格	5	8
妻の性格	11	17
夫のギャンブル癖	1	2
妻のギャンブル癖	0	0
妻が働くことへの無理解、非協力的態度	2	3
夫の精神障害、病気	3	5
妻の精神障害、病気	9	14
宗 教	2	3
その他	12	19
無回答	1	2

相談内容（複数回答）

回 答	件数	%
ただ何となく鬱屈した思いを吐き出したい	9	14
離婚すべきか思い悩んでいる	16	25
離婚を言い出されて困っている	22	35
離婚したいが配偶者が同意しない	17	27
離婚にお互い同意、条件について話し合い中	8	13
離婚したが、悩みや問題がある	1	2
その他	2	3
不 明	0	0

年 齢

年代	件数	%
20代	3	5
30代	22	35
40代	20	32
50代	14	22
60代	4	6
70代以上	0	0
不明	0	0
総数	63	100

質問内容（複数回答）

回 答	件数	%
経済的な不安	2	3
健 康	5	8
住居について	2	3
妻との関係について	33	52
子どもとの関係	20	32
異性、再婚	2	3
法律、手続きその他について知りたい	41	65
1) 調停、裁判、弁護士等	11	17
2) 財産分与	12	19
3) 慰謝料	5	8
4) 親権、養育費	18	29
5) 面接交渉	6	10
6) 婚費分担	5	8
7) その他法律手続き	7	11
その他	5	8
無回答	2	3

夫婦の状態

状態	件数	%
同居	23	37
別居	32	51
離婚	1	2
単身赴任	1	2
家庭内別居	6	10
その他	0	0
不明	0	0
総数	63	100

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。

みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。

■在宅で仕事と家事、育児をこなす方法を教えて下さい

R・Y (福岡・?歳)

現在、転職の為に求職期間が長くなり、しんどい毎日を過ごしています。資格を活かしきれない日々に、子どもの成長と地域の中の就職難、長女の登校拒否、その後の無気力など、数々の問題の中で、努力中の段階です。

在宅で、仕事と家事や育児をこなす方法の書籍や参考書があったら、教えて下さい。

■葛藤悲しみから解放されました

Y・T (青森・?歳)

昨年5月に離婚して以来、様々な葛藤や悲しみから解放され、毎日元気で明るく過ごしております。

今は、5歳の息子と私の両親と4人暮らしをしています。フルタイムで働いていますので、両親に随分子どもの面倒をみてもらっています。そのことでぶつかることがあり、なかなか感謝の気持ち素直に出せず、自分が嫌な人間に思えることもあります。今のと

毎日です。

■ハンドを卒業します

K・M (高知・?歳)

8年間、消極的な会員でしたが、何度励まされ勇気づけられたことでしょう。入会当時から続いているペンフレンドとも出会いました。

離婚当時10歳だった、子どもも今春高校を卒業しました。離婚を恥ずかしいことと思ったことはありませんが、自分のとった行動で、子どもを初め、多くの人を傷つけ苦しめたことは事実です。

今後は、人から頂いた恩恵に対し、少しでもお返しができればと考えています。本当に長い間、ありがとうございました。

■ハンドを退会します

S・H (北海道・?歳)

ハンドに入って1年経ちました。きっかけは夫との不仲だったので、この1年で、お互いの未熟な部分も随分認めあえるようになり、なんとかうまくやっています。しばらくは、離婚するしないに

関わらず、自分の経済的自立を目標にしていこうと思っています。フェアな関係を築くにはやはり大切なことと思うので。ハンドを退会したいと思っています。

お便り・お電話下さい

■母娘二人暮らしの方お便り下さい

R・S (東京・39歳)

何年も揺れ動いていましたが、夫を信じられない気持ちと闘うことに自分の人生を費やすのが嫌になって、やっと離婚しました。けれども私自身の自信の無さや娘(今春から小6)の不登校のこともあって、まだ就職できずにいます。

娘にとってはショックだったと思いますが、文句の一つも言わないのがかえって辛く、そろそろ思春期だし、家の中の風通しを良くしたいと思っています。母娘二人暮らしの方、特に子どもが小5〜中1位の方、文通又は近くならお会いして親子共々つき合えたらいいと思います。お便りお待ちしております。

※匿名の方には表記事務所円より子へお送り下さい。転送します。

■山形の方、ご連絡下さい

Y・M (山形・33歳)

結婚して11年目を迎えました。

結婚2年目頃から離婚ということば考えていました。子どものこと、世間体等から、私さえ我慢すればという思いで、過ごしてきましたが、様々な要因が積み重なって、真剣に離婚を考え始めて1年。

私は、現在小4と小2の子どもがいて、専業主婦です。同じ山形に住み、離婚を経験された方、離婚を考えている方のお話を伺えたらと思います。

■情報を教えて下さい

A・K (埼玉・?歳)

夫の暴力、浮気等が原因で別居して3年以上。過去に調停を申し立てたものの、夫の詭弁、誠意のない態度に、調停委員と共に振り回され、すぐに裁判で、夫と不貞相手と争う気力など、全く残っていませんでした。

まず、自分の精神面と娘(3歳)との生活のリズムを立て直そうと、実家から離れ、娘は保育所へ預けパートを始め、ようやく落ち着いた生活を取り戻しました。そろそろ不貞の時効ですが、私と娘が夫と相手の女性に苦しめられたのは事実ですから、女性には慰謝料という形で清算してほしいと思います。不貞に詳しい弁護士もわからず、

どの程度証拠集めや情報収集をすればよいかわかりません。また女性との交渉(協議、調停、裁判等)、夫との関わりについて、心構え、注意点などがあつたら、教えて下さい。

また別居中か離婚後に専門学校や大学に通い、資格を取得して就職された方がいらしたら、資金調達などの情報をお願いします。

■お便りお待ちしております

S・I (東京・?歳)

昨年、米国人の夫と離婚し、子どもと明るく元気に生活しています。離婚前は、いろいろと不安でしたが、今は物事を一つ一つ肯定的にとらえ、前向きに考えるようにしています。別居中、離婚された方、元気を交換しませんか? お便りお待ちしております。

■子どもと別れて暮らしている方 アドバイス下さい

M・K (岐阜・?歳)

172号に載せて頂いた岐阜のM・Kです。裁判で離婚にはこぎ着けたのですが、2人の子とも達(11歳の息子、8歳の娘)は父親が親権者と決まってしまうました。夫たちに「子どもは家のもの」「女は借り腹」と言われた通りの結果になってしまいました。

夫は財産分与や面接の話し合いにも応じないので、調停を申し立てることになりました。今は近いので、子どもが私の家に遊びに来たり、電話をかけてきたりして、夫には内緒で交流はありますが、いつまでも続けられません。

子どもとの接し方、私の生活をどうしたらよいかと悩んでいます。子どもと離れて暮らしている方、ぜひアドバイス下さい。またお近くの方、お友達になつて下さい。

☎/FAX

(夜8時以降は、たいていいます)

世話係より

■香川の定例会を開きます

(香川・?歳)

香川の定例会を開きます。近県の方もどうぞ。テーマは「3月28日、29日のシンポジウムの報告」「喪失感をどうするか」。円さんに香川に来て頂く準備も進めたいと思います。会員の匿名参加も可能です。

▼日程 5月16日(土) 午後2時~4時 ▼会場 喫茶「シカ」綾歌郡国分寺町 ☎087-874-3850 申込は世話係 まで。

★出版物紹介

ニコニコ離婚講座が200回を迎えたのを記念してハンドブック「21世紀ジェンダー・フリーの社会をめざして1979~1998家族の変遷」を発行しました。

円より子と金住典子弁護士との対談やハンド会員からの体験手記、離婚講座と家族・女性問題関係年表等を掲載。現代家族問題研究所発行。定価は500円ですが、今回特別にハンド会員の方には、送料込み500円でお分けします。

希望の方は郵便局の郵便振替か、表記事務所まで500円分切手を同封の上、お申込下さい。

振込先 00140-6-120542 ハンド・イン・ハンドの会

★電話相談カウンセラー基礎コース開講のお知らせ

昨年90名の方が受講され大変好評だった、離婚110番の相談員養成講座基礎コースを開講します。2年間の研修後、ボランティアとして相談に参加して頂く予定です。円より子を初め、医師、弁護士、各分野の専門家の方々に、夫婦の関係や子どもの問題、心や体の問題について教えて頂きます。職場の人間関係、親子関係にも役立ちます。

▼日程 5月16日(土)~3月13日(土)、全20回 ▼受講料 4万円 ▼定員 50名 ▼締切 5月13日(水) ▼申込 電話かFAXで事務局向井、橋本まで。

☎/FAX 03-5512-2738

《お世話係》

- ★仙台
- ★福島
- ★北陸
- ★新潟
- ★埼玉
- ★群馬
- ★愛知
- ★滋賀
- ★大阪
- ★大阪
- ★神戸
- ★岡山
- ★広島
- ★香川
- ★四国
- ★福岡
- ★福岡
- ★熊本
- ★大分
- ★宮崎



第201・202回 ニコニコ離婚講座

(5月) 5月30日(土) 午後1時～4時半、飯田橋セントラルプラザ6F(JR・地下鉄飯田橋駅隣)で。1部講師未定。2部は金住典子弁護士「離婚の法律と手続き」。

(6月) 6月20日(土) 午後1時～4時半、JCIビル6F(地下鉄半蔵門駅下車。ダイヤモンドホテル裏)で。

いずれも参加費2000円
お問合せは事務所向井、橋本まで。
☎03-5512-2738(事)
☎03-3261-1835(留)

★東京の会合

▼5月30日(土) 午後6時～9時東京ウイメンズプラザ視聴覚室Aで。
▼6月12日(金) 午後6時半～8時半、麹町の円より子宅で。テーマは「離婚後の仕事と人生設計」。

参加費1000円(夕食付)。事務所橋本までお申し込み下さい。

★ハンド夏合宿のお知らせ
夏合宿を8月22日(土)、23日(日)に、国立婦人教育会館(埼玉県)で行います。詳細は次号に掲載します。定員大人30名、幼児20名。申込金1000円を添え、住所、電話番号、参加者氏名、生年月日、年齢を明記し、表記事務所橋本まで。

大阪のニコニコ離婚講座

(5月) 都合によりお休みです。
(6月) 6月6日(土) 午後1時半～4時半、ドーンセンター(大阪府立女性総合センター)で。中村啓子氏(心理カウンセラー)のお話。参加費1500円。
竹川幸子法律事務所
☎06-393-1331

★大阪の例会
5月はピクニックがあるので中止。
★ハンド大阪のピクニック
5月4日(祝) 午前11時、地下鉄鶴見緑地駅出口付近に集合。花博記念公園鶴見緑地へ。弁当、水筒等必要なものは、各自持参。雨天決行。参加申込不要。問い合わせは☎/FAX06-11-1111まで

★埼玉の会合
▼5月23日(土)、24日(日)に茨城県鹿島郡大洋村で1泊の集いを。

定員7名。会費2000円、交通費別途。海辺で遊びましょう！

(東京駅八重洲南口(バス) ↓ 鹿島神宮(鹿島臨海鉄道) ↓ 大洋駅)
▼6月28日(日)、 宅で、ハンド181号の発送を。
いずれも詳細は まで。

☆離婚一〇番

日時、番号をよく確認して下さい。

(電話番号)

☎03(3261) 1835

☎03(3261) 1836

(日時)

▼第1、第3、第5土曜日の午後5時～8時
▼第2、第4土曜日の午後2時～5時

★購読料について

次の3通りの方法があります。

①1年間3600円(送料共)

②2年間まとめて前払いの場合、7200円を6000円に。

③出社払いもしくは免除

どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出て下さい。

期限切れの通知の入った時に、お振りこみ下さい。

(振込先) 各地の郵便局にて

00140-61120542

ハンド・イン・ハンドの会

■事務局便り■

★ようやくさわやかな季節になってきました。先日(200)回記念シンポジウムではハンドの方々がたくさんお会いすることができました。普段は離れていても同じ言語で会話ができて、ホッとしますね。(橋本)

★記念シンボや集会を終えて、気がつけばお花見の季節。まるでパンと弾けるように見事に咲く桜を楽しみました。また久しぶりに友達と中華街で飲茶に舌鼓。関内のビアホールでは地ビールを満喫しました。(向井)

★中学を卒業した娘と二人で春に旅行をと考えていましたが、土日はすべて仕事が入っていて、やっと一泊二日で京都に遊びに行きました。錦市場内の有次で上等の包丁を買ってやり、娘の名を彫ってもらいました。この包丁の切れることと切れること。楽しくて二人で夢中で料理をしています。一歳から包丁を持たせた甲斐がありました。が、ナイフも包丁も使いようですよ。(円)